

Belmonte

について



ベルモンテ

1199年にサンショ1世 (D. Sancho I) によって初めて勅許が与えられたこの古代の集落の道はすべて丘の頂上の花崗岩でできた城に通じています。1258年に書かれた文書には、高くそびえる天守閣、城壁、塁壁、および貴族の邸宅などの建造物について記されています。この厳粛な設計を遮るように、西側の城壁にはマヌエル王 (D. Manuel) のシンボルであるアーミラリ天球儀と、2匹のやぎが描かれたカブラル (Cabral) 家の盾が描かれた2つの繊細なマヌエル様式の窓があります。カブラル家の最も有名な人物は、言うまでもなくペドロ・アルヴァレス・カブラル (Pedro Álvares Cabral) です。1500年にブラジルを発見した彼は、1467年にベルモンテ (Belmonte) で生まれました。

城に隣接して、サン・ティアゴ (São Tiago) を祀ったローマ・ゴシック様式の小さな教会があります。内部では、花崗岩のピエタ像の自然な美しさがこの教会の素朴さとうまく調和して印象的です。教会の別棟にはカブラル家のパンテオンがありますが、ペドロ・アルヴァレス・カブラルの遺体はサンタレム (Santarém) のグラサ教会 (Igreja da Graça) に安置されています。

ベルモンテに定住していたユダヤ人コミュニティは、1492年にカトリックのスペイン国王がすべてのユダヤ人の追放命令を出すとその数が大幅に増加したため、ポルトガル国王も1496年にスペインにならって追放を命じました。この時期、スペインから逃れてきたユダヤ人はベルモンテなどの国境近くの町や村に定住しました。法令により、ユダヤ人の住居は城壁の外側のマロコス地区 (Bairro de Marrocos) に建てられました。そこでは、例えば、服の仕立屋を表すはさみなどがドアの脇の石に彫刻されており、それによってその家の住民の職業を見分けることができました。

ベルモンテは現在、ベト・エリアウ (Bet Eliahu) のシナゴークの本拠地であることに大きな誇りを抱いていますが、ユダヤ人コミュニティが祈禱、伝統および慣習を秘密裏に守っていかなければならなかった中世の雰囲気はほとんど残っています。

グアルダ (Guarda) へ至る道にトーレ・デ・セントウム・セラス (Torre de Centum Cellas) があります。この奇妙な建物の起源は完全にはわかっていません。